

# 「支え合い活動 2 年間を振り返って」

平成 26 年 6 月 2 日

県営浦賀かもめ団地自治会

会長 具志堅 吉治

かもめ団地 支えあい活動運営委員会

## 「県営浦賀かもめ団地の現状について」

かもめ団地の建設は（1969 年）ですから、築 44 年の古い団地です。管理戸数は 1,589 戸ですが、2014 年 4 月 1 日現在、空き室が約 250 戸あります。この空き室の割合は年ごとに多くなっています。

現在、県下 219 カ所ある県営団地全体の超高齢率のレベルの高さも問題になっていますが、中でも私たち「かもめ団地」の超高齢の率はトップです。

「かもめ団地」の人口は現在 2,552 人ですが、人口中 70 歳代の人々がもっとも多く、約 27 パーセント、次に 60 歳代が 21 パーセントとなります。

また、70 歳代、60 歳代の単身世帯が多いのも特徴です。それに対して、20 歳代から 50 歳代までのいわゆる勤労世代は少なく 30 パーセントです。まとめると、かもめ団地は超高齢でしかも単身者が多い団地だということです。

このような、実態の上に私たちの取り組みが続けられたことをご理解いただきたいと思います。

## 「孤独死の問題からはじまる」

「支えあい活動」の取り組みの最初は平成 22 年末に「孤独死防止対策等調査事業」を県と共同で実施し、自治会と民生委員が連携して委員会を設置したことによります。

そして翌年、平成 23 年 11 月「県営住宅等支え合い活動モデル調査研究事業」を受託し、「青空市場」「コミュニティーカフェなごみ」を設置し具体的な事業を開始しました。

かもめ団地では、当時はいわゆる「孤独死」は珍しくなく、亡くなってから発見されるまで、1 週間程度は普通にあり、中には 1 か月経過してから確認したという事例もありました。

多い年では年間 15 件で、住民もその噂を聞いても「ああ、又あったの」と聞き流すほど、ふつう感覚になっていたと思います

平成 24 年 3 月末に、「県営住宅等支え合い活動モデル調査研究事業」の契約が終了し、平成 24 年、4 月 1 日よりかもめ団地自治会が独自に「孤独死ゼロ」の目標を掲げ、「支えあい活動運営委員会」を組織し「青空市場」「コミュニティーカフェなごみ」の運営に乗り出しました。



## 「カフェなごみ」の効果



「カフェなごみ」の運営に関して注意したことは、まず本格的な美味しいコーヒーを提供することでした。インスタントでなく、手抜きしないで入れたコーヒーを喫茶店として、丁寧に提供するように心がけました。

高齢のためや障害のため、身体的なまたは精神的な不自由から、団地の外へのお出かけがままならない方々へ、街の喫茶店に出かけた気分で、美味しいコーヒーを楽しんでいただくようスタッフも気を付けるようにしました。飲み物はコーヒー、ココア、昆布茶などを100円で出しております。

季節感を感じてもらえるよう、店内の装飾も工夫しました。七夕、クリスマス、お正月などの装飾をし、一人暮らしの方々に「なごみ」に来れば、「みんな一緒に楽しいよ」と呼びかけております。どうしても単調になりがちな高齢の方々、障害のある方がたの、日常生活のアクセントになるようなサロンを演出するよう心がけております

現在、1日3時間、週5日営業していますが1日平均15人程度の来客を、ボランティア3人で切り盛りしております。

今では「なごみ」はすっかり団地住民に定着して、住民のいわば癒しの「お茶の間」として愛されています。高齢者や障害のある方など、本当にさまざまな方々が開店時間を待ちかねて、お出でになるようになりました。

単身男性の方も多く来られます。

ボランティアの方は、明るく穏やかにみなさんと接しておられます。

「なごみ」を通して住民相互に交流関係が生まれ、自然に新しいつながりが出来るようになりました。

「なごみ」の2年間の活動の結果として、住民の地域活動への参加が増えてきました。「なごみ」はかもめ団地のシンボルとなり、引きこもり防止にも、団地住民の生活の楽しい交流の場として、大きな成果を上げております。

## 「青空市場」の効果

「青空市場」は2～3か月に1回のペースで、団地内の空き地にテントを張り行っています。

1回の催行に70人ほどのボランティアの協力を得ております。

模擬店では、主に焼きそばや炊き込みご飯などの主食、アジの干物などの惣菜類をだして、他に福祉団体や手芸サークルの出品もあります。

「青空市場」は2年を経た今では、団地住民の楽しみなイベントの一つとなりました。



毎回 100 人～150 人の住民が買い物半分、楽しみ半分で出かけてきてにぎわいます。

品物は 30 分～1 時間ではやばやと売り切りごめんとなります。

この「青空市場」は、回数も少なく直接的な買い物弱者対策とはならないかもしれませんが、かもめ団地の名物として定着して、団地住民のまつり的な楽しみになり、住民の交流の場となり、また自治会の活動への理解を深めています。



青空市場の参加者から、地域活動への参加へというきっかけにもなり、「青空市場」の効果は大きいのです。

### 「孤独死ゼロ」の達成

かもめ団地では 25 年度の孤独死は 1 件もありませんでした。

地道にしかも楽しみながら、「カフェなごみ」と「青空市場」、その他の取り組みを根気よく続けてきたことが、自然と住民の意識を変え、人間関係を豊かにし、住民の孤立を防いできたものと思われまます。

声を高めて「孤独死をなくそう」と叫ぶことではなく、毎日のボランティアさんたちの地道な活動をこつこつと続けてきた成果として、孤独死ゼロが達成されたのだと考えられます。

### 「ボランティア」の大きな力に感謝

当初、支え合い活動の構想を考える際に、一番心配したのは活動を支えるボランティアをどのようにして確保すればよいのか。人材を育成するにはどうすればよいのか。明日のスタッフの不足をどうやって補うか。など不安でいっぱいでした。

結果的にこの課題を解決したのは、決意したら実行するという事でした。

ともかく何が何でも活動を継続するという強い意志で乗り切ってきました。活動を継続する中で、生じた問題をその時その時解決し、より良い方向をめざし誰もが成長してきました。

人材の育成は、活動の中でなされてきましたし、今も継続しています。

報酬もないボランティア活動に現在約 80 名の方々が協力して下さっています。

2 年間、この人数が減ることはありません。

皆さん献身的に協力して下さいます。

それは、自分たちのこの活動が必ず住民自身の「安全安心の団地生活」「不安のない高齢者団地」を構築することにつながっているのだということを、信じていて下さっているのだと思います。

現在の活動の延長上により良い将来があるということ、イメージできているのです。





「支えあい活動」は、人のためでもあると同時に自分のためでもあることが、しっかり理解されてきました。

ただ、私たちは懸命に活動を続けてきた成果として、優れたボランティアの育成が達成されました。

大勢の方々のご協力があってこそこの2年間の成果でした。

## 「課題と方向について」

「カフェなごみ」の家賃は県の支援を受けております。家賃の支援がなければ、なごみの継続は不可能です。

「なごみ」の経営は、収支トントン程度で、ボランティアに謝礼を差し上げる余裕はありません。「青空市場」で多少の利益をだし、食事会などで労をねぎらっております。

今後の継続を考えると、「支え合い活動」をいつまでも善意や好意だけに依拠しているのは、心苦しいものがあります。

家賃の減免などの県の支援の継続を要望しながらも、活動自らが利益を出せるような形態を考えてゆくことなど、活動資金の確保が依然として課題です。

かもめ団地自治会が「支え合い活動」をスタートした時点で、各地の同様な活動をすでに展開している団体などを研究しました。それらの先進的事例はもちろん大きな参考例になりましたが、私たちの団地は県営団地であり、各団体の活動の成功例をそのままマニュアルにはできませんでした。かもめ団地に根付かせるには、工夫が必要でした。

自治会活動の中でも、防災活動の分野、次世代の育成の分野などで、新しい切り口の活動を手がけてきました。

そのような流れの中で、すこしずつですが、確実に住民の意識が変わってきて、団地を自分たちの町と意識し、「良くするのも悪くするのも自分たちしだい」という思いが共有されてきつつあります。

今年度の自治会は、高齢者も年齢のせいにはしないで、可能な範囲の活動をしよう、そして住み慣れたこの自分たちの団地を、安全安心の終のすみかにしようと呼びかけています。

支え合い活動は、「お助け隊」をつくり「生活支援」の活動も徐々に広げつつあります。かもめ団地には90歳代の方も住んでおります。80歳代の方々はまだまだお元気で、自治会の活動に参加する方も少なくないのです。

高齢であっても適切な生活支援があれば、充分団地で自立した生活が出来ると考えます。住民自身の要望の多くは、やはり住み慣れた団地に最後まで住み続けたいということです。

自治会で出来ることは、限られていますが、住民の意志にもとづいて、微力であっても「最後まで安全安心の町」の実現に向けて活動を進める所存です。

大家さんである神奈川県をはじめ、関連諸機関、関連諸団体には、今後のご支援、ご指導を切にお願いいたします。

また、かもめ団地住民の皆さんボランティアの皆さんには、感謝とともに今後のご協力をもお願いいたします。

県営浦賀かもめ団地自治会

239-0813 横須賀市鴨居 2-80-39

Tel 046-842-9710